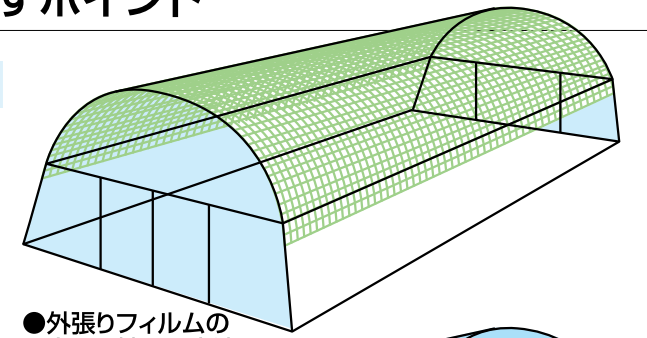


■メガクール™・ネットを使いこなすポイント

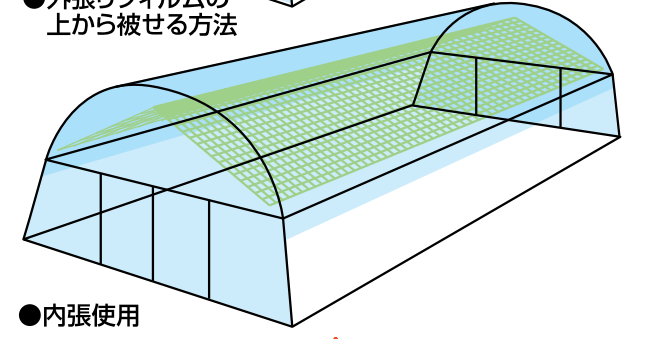
その1

メガクールの展張方法は3通り

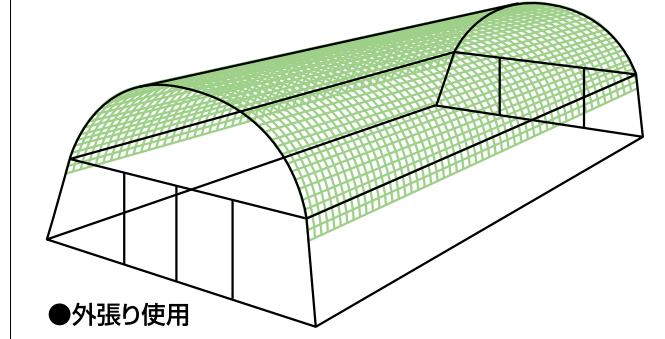
メガクールは、①外張りフィルムの上から被せる、②外張りとして使用する、③内張りとして使用する、等の使い方ができます。遮熱効果を最大限発揮するには外張り使用をおすすめします。



●外張りフィルムの上から被せる方法



●内張り使用

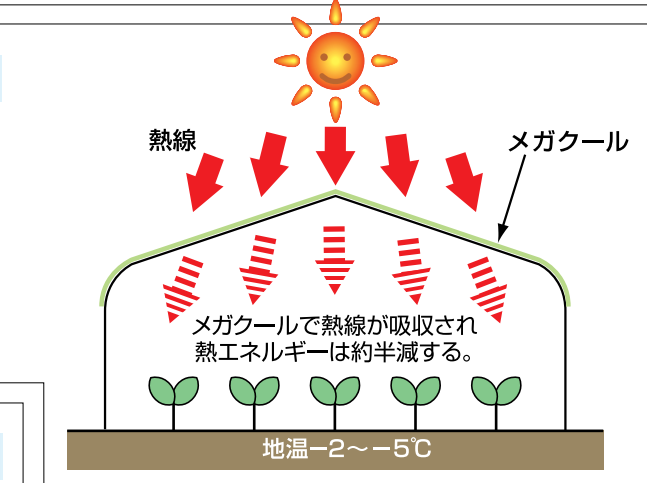


●外張り使用

その2

太陽光線をメガクールを透して作物に当ててください。

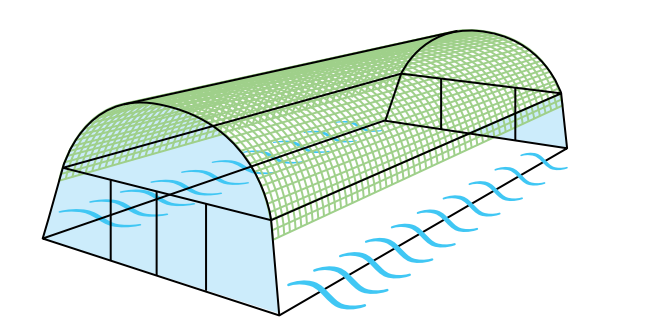
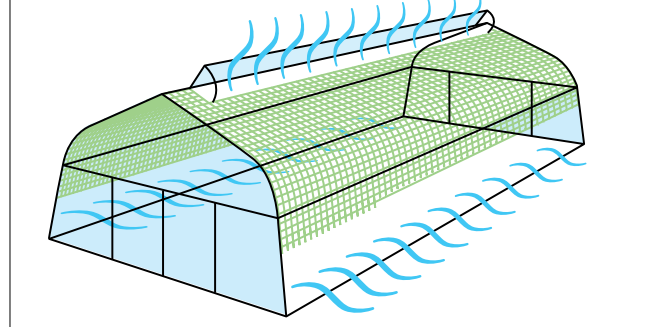
太陽光線の中の熱線をメガクールが約半分吸収します。裏返せば、メガクールを透った光は熱エネルギーが半分になっているのです。東西棟はメガクールを南側にやや垂らすなど工夫してください。



その3

風通しを良くすることが大前提です。

メガクールは熱線を約半分吸収しますが、残りはハウス内に入ります。メガクール自体も熱を持ちます。ハウス内に熱がこもらないように、風通しを良くすることが重要です。



その4

水やりは作物と対話しながら控えめに。

メガクール下は透明な被覆材に比べて地温や培地温が低くなるため、水分の蒸散量が減少します。灌水回数を抑えたり1回の灌水量を減らすなど、状況に応じた水管理をお願いします。

その5

使用後は、すぐに片づければ効果が長持ちします。

太陽光線に当たるほどメガクールの遮熱効果が減少するので、使用後はすぐに納屋などの冷暗所に片付けてください。よく乾燥させてから片付けること、荷重がかからない状態で保管することが重要です。

◆規格

種類	加工品幅(m)								長さ
	2	3	4	5	6	7	8	9	
ネット	●	●	●	●	●	●	●	●	1mきざみでカット

*注：テーパーハット加工もお受けします。詳しくは当社にお問い合わせください。
◎ご不明な点がありましたら、使用前にお買い上げのJA、販売店もしくは当社にお問い合わせください。

⚠️ 使用上のご注意

- 太陽光線の波長をコントロールし、植物の生長に影響を与える資材です。ご使用に際しましては、これを使用される生産者の皆様とご相談のうえ使用方法を選択してまいります。弊社又は最寄の取扱店にご相談願います。
- メガクールは農業資材です。他の目的に使用しないでください。
- 資材の劣化を早めますので、ハウス内外での硫黄薫蒸および硫黄系薬剤の散布を避けてください。
- 冬の曇天時に使用すると、ハウス内への光線透過量が少なくなりますのでご注意ください。
- 夏季使用時はハウス内の換気を十分に行い、暑い空気がこもらないようにご注意ください。
- メガクール下は通常より水分が蒸発しにくいいため、灌水などの水分管理にご注意ください。
- 使用後は乾燥させて、陽の当たらない納屋に、荷重がかからないように保管してください。
- 夏季2作使用が目安です。環境条件によっては使用期間が短くなる場合があります。
- 色目と効果は徐々になくなってきます。熱を吸収するので劣化が早い場合があります。

※記載内容は、現時点で入手したデータ・資料・情報等に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関し、いかなる保障をするものではありません。また、仕様は予告なく変更することがありますのでご了承ください。

◆メガクールの技術が認められました。



ASHS AWARD
米国園芸学会
(The American Society for Horticultural Science)
2000年 学会賞
掲載：Hort Technology 9(4):618-624

製造・販売元 取扱店

MKVアドバンス株式会社
〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町1-9-2 住友不動産神田和泉町ビル
TEL 03-4334-4636



当社ホームページ

光質コントロール メガクール™・ネット



外張り使用例

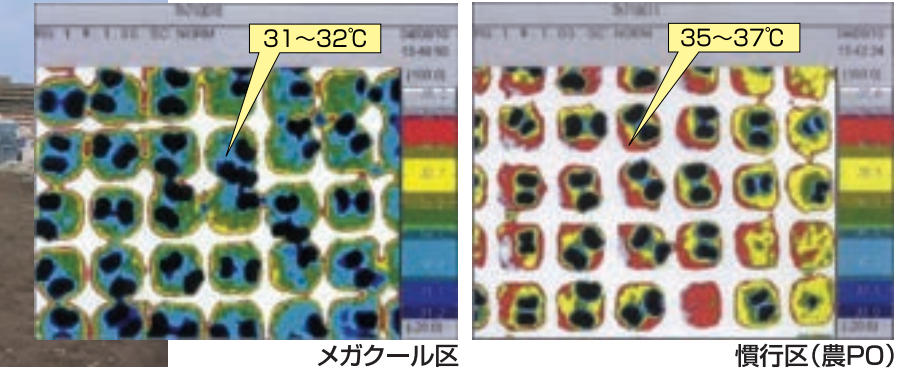


内張り使用例



トンネル使用例

■サーモトレーサーによるセルトレイ苗の培地温比較 (2004.8.10 13:50 宮崎)



セル育苗苗/茨城

メガクール区

慣行区(農PO)

■メガクール™・ネットの特長

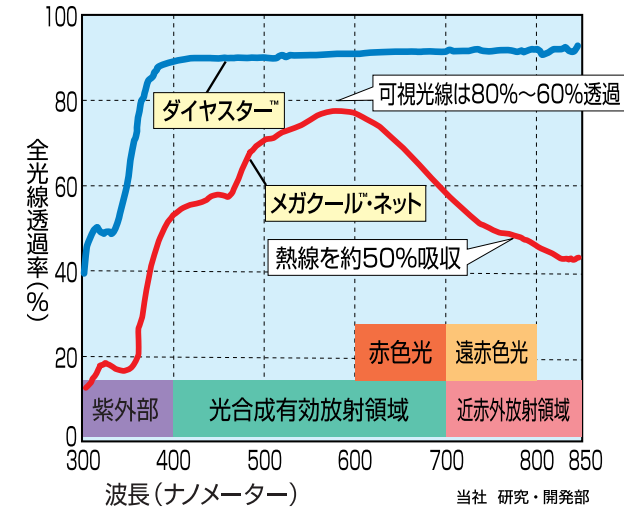
◆太陽光線の熱線を吸収し、植物体温や地温の上昇を抑制します。

- 夏季栽培における作物の高温障害(裂果・葉焼け・花蕾焼け・発根不良など)を回避します。
- 夏季栽培における発芽率の向上、徒長苗の防止、灌水回数低減による省力化が図れます。
- 栽培条件の改善による生育促進および収量増が期待できます。
- イチゴなどの収穫期間の延長、果実品質の低下を防止します。

◆赤色光(R)と遠赤色光(FR)の比率<R/FR比>が大きくなるように光質をコントロールします。

- 夏季のポット苗やセル成形苗の育苗において徒長を防ぎガッチリした苗ができます。
- イチゴの育苗においてスムーズで安定した花芽分化を促します。

■光線透過特性



※メガクールネットは、フラットヤーンを編み込んだ網目形状になっています。本掲載グラフは、網目の平均箇所を測定した結果になります。

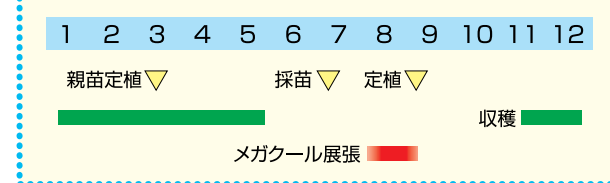
MKVアドバンス

メガクールを使用した栽培事例——その①

「イチゴ育苗における健苗生産」

メガクールとウォーター夜冷と日長処理の組合せでガッチリとした健苗ができ、花芽の揃いが良くなりました。2月以降の成り疲れがなく、5月までで8トン／反どりができました。

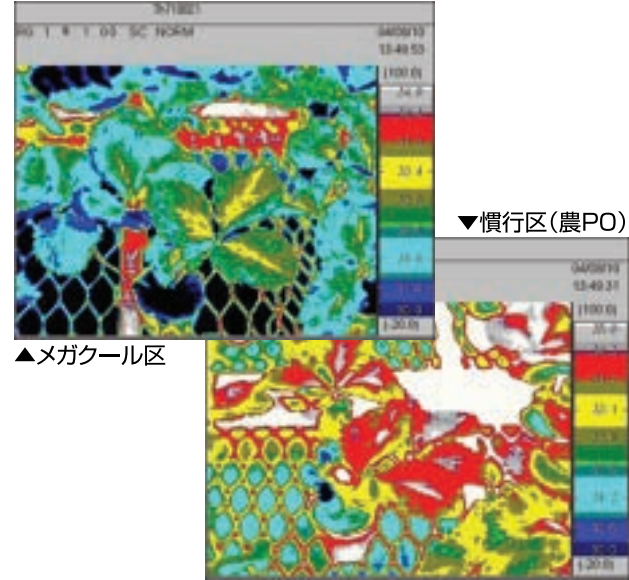
■栽培暦(栃木県さくら市の一例)(11月中旬収穫開始)



■栽培のポイント

- 花芽分化の方法は様々ですが、メガクールは次のような使い方ができます。
 - ①夜冷装置の前のハウスに展張し、昼間の苗やポットの温度上昇抑制、夜冷の効率アップを図る。
 - ②ポット育苗の育苗ハウスに展張し、昼間の苗やポットの温度上昇抑制を図る。
- 通常よりも培地が乾きにくいので、水やりおよび肥培管理に注意が必要です。
- 育苗期間の初めのうちは透明フィルムのみで、できるだけ光を入れるようにします。

■サーモレーサーによる葉面温度比較

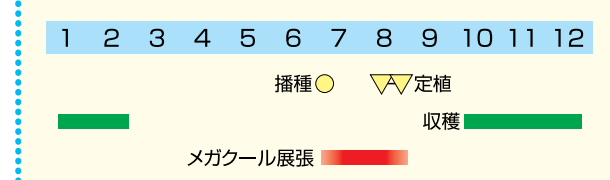


メガクールを使用した栽培事例——その②

「トマト育苗における健苗生産」

6~8月のトマトのポット育苗は、花芽が飛んだり徒長したりで苦労しますが、メガクールを使ったら8段で花芽が着いて、ガッチリした苗に仕上がりました。

■栽培暦(熊本県八代の一例)



■栽培のポイント

- 害虫(シルバーリーフコナジラミ)対策での目合いの細かい防虫ネットの使用が前提です。換気を十分に行うこと。換気扇の併用は効果的です。
- 遮光資材の併用はできるだけ避けます(光合成に有効な光は十分に入れる)。
- ポットの土の乾きに応じた水管理が必要で、従来の半分程度で済みます。
- 花芽が早く着くので、早めに本圃へ定植し樹勢を保ちます。

■メガクールをトマトの育苗で使用

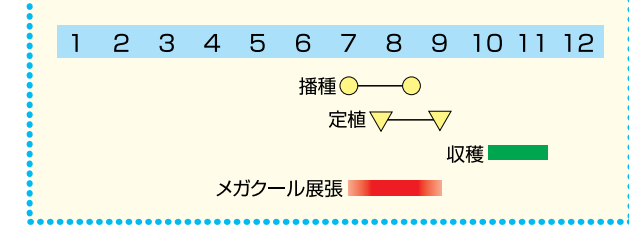


メガクールを使用した栽培事例——その③

「セルトレイ育苗における健苗生産」

メガクールを使って首が伸びていないガッチリした苗ができました。7~8月にセルトレイ育苗をし、盛夏期に本圃へ定植する露地野菜の作型にメガクールはお奨めです。(レタス、ハクサイ、キャベツなど)

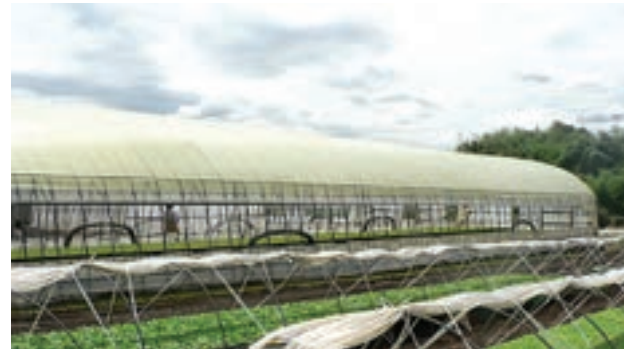
■栽培暦(茨城県西地区の一例)



■栽培のポイント

- 播種直後は遮光資材で芽出しさせます(従来通り)。
- メガクールは芽出し後から定植前まで掛けます。ハウス育苗、トンネル育苗のどちらにも使用できますが、いずれの場合も通気を良くします。
- 定植直前に直射光をあててハードニングを行ったあと、本圃へ定植します。
- 水やりの回数が少なく済みます。培土の乾きに応じた水管理が必要です。

■セル苗の比較写真

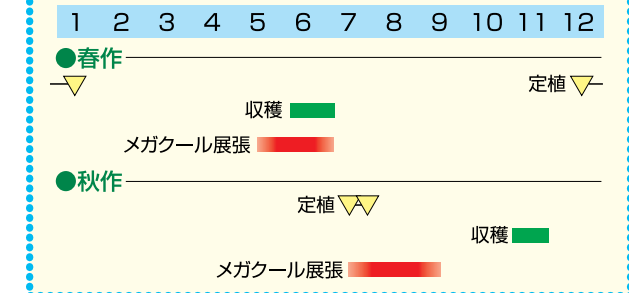


メガクールを使用した栽培事例——その④

「トルコキキョウの花蕾焼け防止」

夏季収穫するトルコキキョウは収穫間際の花蕾焼けが大きな問題です。メガクールを使うことで、特に夏場の栽培が難しい青色系品種がきれいに仕上がりました。

■栽培暦(千葉県館山市の一例)



■栽培のポイント

- メガクールを掛けるタイミングは一輪めが出始めた頃です(春作)。
- 春作のブルー系品種は特に花蕾が焼け易いのでメガクールが有効です。
- 秋作のメガクール利用は、高温防止、苗のストレス回避が目的です。
- 秋作の定植直後は必要に応じて遮光資材を併用します。

■花卉の焼け比較写真

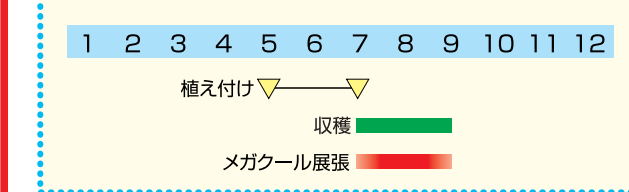


メガクールを使用した栽培事例——その⑤

「ワケギの夏どり栽培における安定生産」

7~9月出荷の作型は、りん茎が肥大して葉身の伸長が停止し商品性が低下しますが、メガクールを使用することで、りん茎肥大が抑制でき収量・商品性共に向上しました。

■栽培暦(広島県の一例)



■栽培のポイント

- メガクールは日射が強い7月~9月に展張します。
- 日射強度は自然光の70%程度が最適です(30%遮光)。
- 夏季栽培は適切な土壌水分管理がとても重要です。メガクール下は土が乾きにくくなります。
- ハウス内の通気を良くしてください。

